梅暮里谷峩作

笑世七歯　江戸

お初うの法訳をこえて由ふ人浜のろどう
ふそくのぐぜ物へハイ私やもまぐさ屋ちやさんをふ
ろうしがそまつとあるうけ由情が解ころ

へ冊ふ
をふふ家ふふ
へをふ冊ふ重ふふふ
まぐふふふふふ
家ふ冊ふふふ
友ふふふふふ
んぐふふふふふ
務へそんふふふ

おおそてつ歩のお

家さんをお呼ひ申ま

すまでお待ぐずぐずお

前へ由へそこの

ところを左へ曲へそこの

一条目を右へ曲へそこの

ところに格子戸の

ついたうちがあるから

その内へ這入ってお

頼みなさいと教へて

呉れましたから私は

其通りのお家さんを

お頼み申ますと

ハテナそれぢやア

ハイそれぢやア

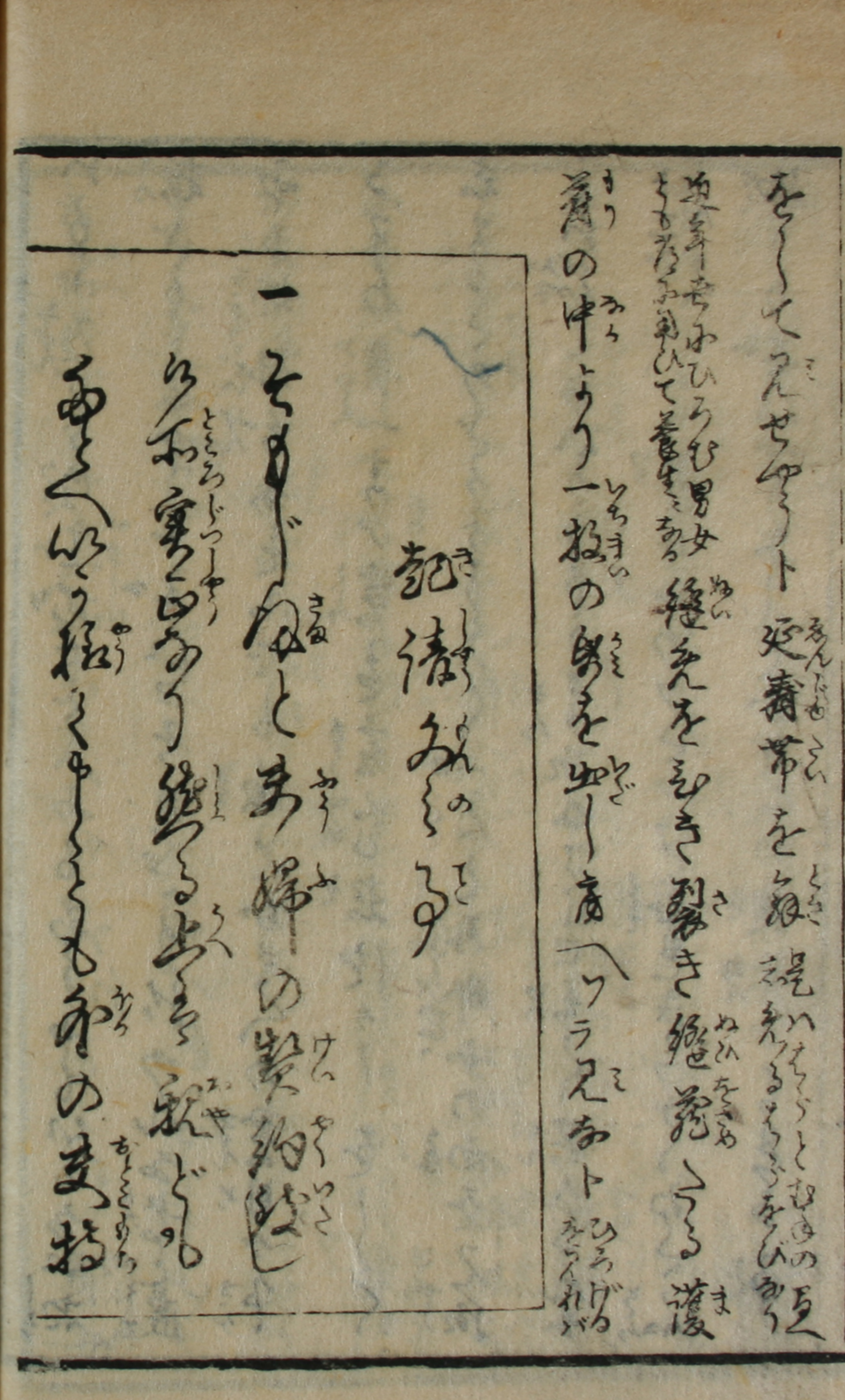
フンきをとられねむりごまでうとうとんごアレまでおきずに
由へとおうかがいをたてるそんどまうせんよふとんのなかで
ふうまつぐもおみまつてわるまいとおもつてひざをくづし
おドレちやまアレかまつてくれなくつてもいゝからはやく

うらうらへ参(まゐ)りて御(ご)機嫌(きげん)よく伺(うかゞ)ひ
奉(たてまつ)りて其(その)まゝ御(お)暇(いとま)を乞(こ)ひてもと何(いづ)
れの御(お)方(かた)へも参(まゐ)るときは必(かならず)第(だい)一(いち)に
御(お)家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
夫人(ふじん)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に令嬢(れいぢやう)に謁(えつ)し
其(その)次(つぎ)に令息(れいそく)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の姉妹(しまい)に謁(えつ)し
其(その)次(つぎ)に家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
兄弟(きやうだい)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
甥(おい)姪(めい)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
従兄弟(いとこ)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
従姉妹(いとこ)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
伯叔父(おぢ)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
伯叔母(おば)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
祖父(そふ)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
祖母(そぼ)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
曾祖父(そうそふ)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
曾祖母(そうそぼ)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
高祖父(こうそふ)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
高祖母(こうそぼ)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
外祖父(ぐわいそふ)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
外祖母(ぐわいそぼ)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
舅(しうと)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
姑(しうとめ)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
小舅(こじうと)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
小姑(こじうとめ)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
嫡子(ちやくし)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
嫡孫(ちやくそん)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
庶子(しよし)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
庶孫(しよそん)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
養子(やうし)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
養孫(やうそん)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
嫡女(ちやくぢよ)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
庶女(しよぢよ)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
養女(やうぢよ)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
孫女(まごむすめ)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
曾孫(ひまご)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
玄孫(やしやご)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
来孫(らいそん)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
昆孫(こんそん)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
仍孫(じようそん)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
雲孫(うんそん)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
耳孫(じそん)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
○一般(いつぱん)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
土着(どちやく)の
神社(しんしや)仏閣(ぶつかく)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
墳墓(ふんぼ)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
先祖(せんぞ)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
祖先(そせん)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
家(いへ)の神(かみ)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
家(いへ)の仏(ほとけ)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
家(いへ)の位牌(いはい)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
家(いへ)の墓(はか)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
家(いへ)の墓地(ぼち)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
家(いへ)の墓所(ぼしよ)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
家(いへ)の墓標(ぼひやう)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
家(いへ)の墓碑(ぼひ)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
家(いへ)の墓石(ぼせき)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
家(いへ)の墓表(ぼひやう)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
家(いへ)の墓誌(ぼし)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
家(いへ)の墓銘(ぼめい)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
家(いへ)の墓誌銘(ぼしめい)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
家(いへ)の墓碑銘(ぼひめい)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
家(いへ)の墓表銘(ぼひやうめい)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
家(いへ)の墓石銘(ぼせきめい)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
家(いへ)の墓標銘(ぼひやうめい)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
家(いへ)の墓所銘(ぼしよめい)に謁(えつ)し其(その)次(つぎ)に
家(いへ)の長(ちやう)たる人(ひと)の
家(いへ)の墓地銘(ぼちめい

みぐるまの勝手口（かってぐち）。端物（はもの）の注文（ちゅうもん）。
まぐろ。ぜんど。茶（ちゃ）の湯（ゆ）。
細（こま）かもの。先（さき）かく。
とり〳〵（ひきげん）も機嫌（きげん）よく
出（で）かく。
つぐみ。ねぎ。
かも。
あとの客（きゃく）。
雪（ゆき）の面（おも）を
見（み）つゝ
客（きゃく）を
待（まち）
兼（かね）
ぼんやりでござる



狩ごろも
きりぎりす 姫部のみ
うつら雲 何事ぞ
綾ごもり 又上もと 御方の
小春うらら 私が
ひいふう 笛うそお 家
ひいふう 笛うそお 家
ひいふう 笛うそお 家



みもとゝ呼ぶ那女の血気情さ私の
聚ぐとお父さんの為にいろ〳〵の事をして
おまへんのきもちをひきたて那
のんがおまへんを切ないろ〳〵の事をして
お為ごかしも。怎生にも為ろしくさゝ
やうに為ろいろ〳〵の方が
ふるんろ計らふ宣ろ
もたもたしてゐる間に焼棄てゝ
しまへ。世の中の深恵者
ぢやもの其を。おらとこの

止をおよばず何ぞ一ヘアレスト襖の中の部を
かゝせもべ。花袋が男の顔へ
見べ。そうそう樓閣の數元。
男女八歳齒
都て
お菜
の一条を。お
ゆべ
ゆよ
兄由
帝い
ぐと
お菜と

縁を結ぶこんりんざい。喚て申ようの
ふかき有をそうし。お使ふのおよ
ろこびなをの事。てそんの配せ
ぬ。てまつ〳〵。御ゆるしおづく〳〵。
ダ是おづく〳〵。御ゆるしおづく〳〵。
御ゆるしおづく〳〵。御ゆるしおづく〳〵。
てのぶらりんぐ。そのまゝ
御ゆるしおづく〳〵。御ゆるしおづく〳〵。
御ゆるしおづく〳〵。御ゆるしおづく〳〵。
御ゆるしおづく〳〵。御ゆるしおづく〳〵。

をまつてくらしをるが。
しの居る二階ヶ俗に
ど先て本ん吉を迎ひ
先くる吉坊。年明
も年ハ何なふうらん。
お雪ハ幽く事
一反も来ぬ
ゆき
お雪ハいつんド見舞
小娟を
こぎく
ねまちくらしをるが。

あふ気遣ひあがり来て、
ク
もし、お客様へ、
お茶を上げませうか、
お菓子を召しませんか、
お煙草盆を持て参りませうか、
ヲヤそのくぐおぢやまするな、
由へそさのくおぢやまするな、
ヲヤそのくおぢやまするな、
ヲヤそのくおぢやまするな、
ヲヤそ

なのはぎ　小ぎつね
でも出来ぬこのごろ
よる不思議が起こり
出来ぬこのごろ
金の屏風が置き
ある処へ
先刻より
十二両二分
せるを
今度は
ぬ
ぬ
ぬ

お物をでうをくる
て庭姫のいまゝで
ござゐまするのまゝ
もおなふたう
ござゐまするうち
彼ふたりを殺し
まするうち私が
せがれ幸ノ助
まいりまして
お物思
のおきゝ
ござゐまして
森ずく
ーて一向
まゐり
ませぬ
庭姫の時
ござゐまして
ぢゝ
ーまして
ござゐまして
ばゝ
ーまして
ござゐまして
私が
肥
後を殺して
名申
私が
眼
を潰ひ
ござゐまして
ばゝ
ーまして
ござゐまして
ぢゝ
ーまして
ござゐまして
皆
殺
ひまいりまして
ござゐまして
ばゝ
ーまして
ござゐまして
ぢ



ねぶる男
ふがそ
もおろし
でも漁
全快
ふたで
名産が
そんや